

## 用語集

### 確率論的リスク評価 (Probabilistic Risk Assessment (PRA))

施設を構成する機器・系統等を対象として、発生する可能性がある事象（事故・故障）を網羅的・系統的に分析・評価し、事故シーケンスを網羅的に摘出し、それぞれの発生頻度と、万一それらが発生した場合の被害の大きさを定量的に評価する方法をいう。原子力発電所の PRA を行うことにより、原子力発電所の設計及び運転の長所と短所に関する知見が得られ、予想される結果、感度、重要となる範囲、システムの相互作用及び不確かさの範囲を理解し、リスク上重要なシナリオを特定することが可能となる。

注) 以下の 3 レベルの PRA がある。

レベル 1PRA : 炉心損傷頻度の評価までを行う PRA

レベル 2PRA : 格納容器応答の評価が含まれ、レベル 1PRA の結果を用いて環境へ多量の放射性物質を放出する事故シーケンスの発生頻度及び放出量の評価までを行う PRA

レベル 3PRA : レベル 2PRA で得られた放射性物質の環境への放出量とその発生頻度をもとに、公衆のリスクの評価までを行う PRA

(原子力安全保安院・原子力安全基盤機構「原子力発電所における確率論的安全評価 (PSA) の品質ガイドライン (試行版)」平成 18 年 4 月、米国原子力規制委員会用語集、「IAEA 原子力安全及び放射線防護で用いる用語の定義」2007 年版)

### クリフエッジ

東京電力福島第一原子力発電所事故での設計上の想定を大きく上回る津波のように、ある大きさ以上の負荷が加わったときに、共通の要因によって安全機能の広範な

喪失が同時に生じて、致命的な状態になるような状況。

(日本原子力学会事故調 最終報告書 付録1. 用語集)

## **リスク**

リスクとは、「どんな悪い事態が起こり得るのか」、「それは、どの程度起こりやすいのか」、「起こった場合の影響はどのようなものか」を考える3つの質問に対する複合回答である。

これら3つの質問により、予想される結果、感度、重要となる範囲、システムの相互作用及び不確かさの範囲を理解し、これにより、リスク上重要なシナリオを特定することが可能となる。(米国原子力規制委員会用語集)

## **リスクコミュニケーション**

リスク評価者、リスクマネージャ、ニュースメディア、利害関係者及び一般公衆の間で行われる(健康又は環境)リスクについての双方向の情報交換。

(「世界保健機関(WHO)国際化学物質安全性プログラム(IPCS)リスクアセスメント用語集」2004年)

## **リスクマネジメント**

企業の価値を維持・増大していくために、企業が経営を行っていく上で事業に関連する内外の様々なリスクを適切に管理する活動。

(経済産業省「リスク新時代の内部統制 リスクマネジメントと一体となって機能する内部統制の指針」リスク管理・内部統制に関する研究会2003年6月より一部修正)

以 上